



AIYES 通信

横浜スペイン交流協会会報

2002年4月1日発行 第31号 発行・横浜スペイン交流協会事務局

2002年度定時総会開催のお知らせ

来る5月12日（日）14：00より横浜駅西口にある、県民活動サポートセンター711号室において2002年度の定時総会が開催される。

2001年度は、予定外の協会活動として10月に「アンダルシア州フェア・in・横浜」への協力、イベントへの参加があり、多忙ながら充実した年となった。

一方、協会創立以来副会長の座にあって、会員一同の母親的存在であった植田伊津副会長を失うという出来事もあり、なにかと波荒い一年でもあった。

来るべき2002年度、協会にとってすばらしい年であることを願い、多くの会員の総会参加をお願いします。

なお総会終了後、山崎宗城会員による「スペインのワイン」をテーマにした、スペイン・サロンを開き、話のあとワインを試飲しながら懇談をする予定です。

— 記 —

日時：2002年5月12日（日） 14：00～15：00

場所：かながわ県民活動サポートセンター711号室（7F）

2002年（平成14年）度会費納入のお願い

4月1日より、2002年の新年度がはじまりました。会員のみなさまに新年度の会費納入をお願いします。

当協会の運営は、会員みなさまの会費と、若干の事業収益等だけで賄われており、財政的に決して豊かとはいえません。よろしくご理解の上、遅延のないよう、会費納入をよろしくお願いします。

毎年必ず数名の方の会費納入が遅れ、事務局より督促させていただいておりますが、このために貴重な会の費用が使われることになります。経費節約のためにも、事務局よりの督促の必要がないよう、決められた日までに、必ずお振込み下さいますようお願いいたします。

本年度も例年同様、正会員3,000円、賛助会員10,000円です。4月30日までに規定の振込用紙（「AIYES通信31号」送付に同封の振込用紙）をご利用になり、お近くの郵便局よりお振込みください。昨年度より振込手数料をご負担いただくことになりましたので、お間違えのないようお願いいたします。

なお、昨年（2001年）12月以降にご入会の方は、2002年度の会費は免除されます。

植田伊津 副会長を偲んで

副会長 齋藤由基彦



▲故植田伊津副会長

植田さんに初めてお会いしたのは1989年の秋ごろだったと記憶しております。横浜国際婦人文化交流会会長の植田さんは、内外の文化交流事業に優れた見識と豊富な経験をお持ちの方でした。

丁度その頃、下山会長や私どもは、横浜スペイン交流協会の創立に向けて、設立趣旨や組織構成、運営方針、事業内容などの策定を進めておりましたが、順風満帆とはいかず、幾多の紆余曲折を経ての創立となりました。この間、植田さんのご尽力もあって、組織の構成や運営を歪めることなく当協会の基礎を築くことができました。植田さんは公平無私、毅然とした態度を堅持された方でもありました。

理事会や各種の会議にご出席の植田さんは、いつも温和な表情で寡黙、出席者の発言にじっと耳を傾けておられました。しかし、協議の内容や方向が本筋から逸れそうになると、すかさず発言を求められ、軌道修正をされるという具合です。植

田さんは、原理原則を重んじ、物事の筋を通される方でした。

パーティや各種催事の開催に際しては、多数のお仲間を誘われ、賑やかに会を盛り上げて下さいました。そして、ご自身の体をご不自由なものにも拘わらず、参会者に対する細やかな気配りを欠かさず、会の雰囲気を高揚させて下さいました。植田さんは、我慢強く、ご自身に厳しく他人に寛容、奉仕精神が旺盛、労りの心豊かな方でもありました。

社会奉仕に生き甲斐を感じ、身を捧げられた植田さん。そして皆から尊敬され慕われた植田さん。

植田さんは、今後とも当協会の精神的支柱として、当協会の発展に寄与されるものと確信しております。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

***** スペイン・サロンへのお誘い *****

本年度4、5、6月のスペイン・サロンのご案内を致します。お知り合いや友人をお誘い合わせ、多くの皆様のご参加をお待ちします。協会々員以外のご出席も心より歓迎いたします。

なお、サロンは今年度より原則として毎月第3土曜日の午後2時半から開催します。会場は月によって変更されますので、『AIYES通信』でよく確認の上お越し下さい。

特に5月はAIYES総会がありますので、その日に合せ5月12日午後3時(日)に変更しますのでご注意ください。

●2002年4月例会

日 時： 4月20日(土) 14:30～16:30

場 所： 県民サポートセンター7階/711号

テーマ： 『スペインと日本との交流』

W杯の準備も佳境に入っている。横浜市のW杯推進課に働くマルク・ベルナベさんは流暢に日本語を操る国際交流員の一人。中南米も含めたスペイン語圏のサッカー選手の通訳も勤めるとのこと。バルセロナ出身の氏が両国の文化をサッカーを通して熱っぽく語ってくれます。

参加費： 会員 1,000円 非会員 1,200円

●2002年5月例会

日 時： 5月12日(日) 15:00～17:00

場 所： 県民サポートセンター7階/711号

テーマ： 『スペインワインについて』

当協会会員の山崎宗城氏のワインに関する豊かな知識を製造方法から、選び方、賞味のし方等を試飲も加えながら話して頂きその後団欒する。

参加費： 会員 無料 非会員 500円

●2002年6月例会

日 時： 6月15日(土) 14:30～16:30

場 所： 県民サポートセンター7階/710号

テーマ： 『スペイン美術館めぐり』

スペインには多くの美術館があるが、皆さんが見学された時の思い出や、感想などを写真、パ

ンフレットなどで紹介し合い、団欒する。

参加費： 会員 無料 非会員 500円

●今後も皆様と一緒に楽しい会を作っていきたいと思っております。ご意見、ご要望をお待ちしております。

担当／大竹智栄子
宮川美句子

鎌田 暁子
牧瀬 貢

大盛況のスペイン・サロン

●1月のスペイン・サロン

テーブルの上にはスペイン料理のtapas（小皿料理）やpincho（スペイン風カナッペ）や飲み物が、担当会員の方々によって沢山並べられました。全員での¡Salud!（乾杯！）と共に、下山貞明会長も参加された新年度最初のスペイン・サロンは、こうして始まりました。

早速、スペイン経験豊かな牧瀬貢会員から、スペインでの最高の味のパエージャとの出会い、スペインの米どころ（水田）の話や、ムルシア地方でつくられる珍しい「レモンの葉のフライ」のデザート「postre de mamá」の話など、写真や絵で紹介されましたが、新しく参加されたスペイン好きの方々も一緒にテーブルを囲んで、スペインの話、旅先で出会った美味しい料理や珍しい料理の話と話題は尽きません。

さらにSr. Emilio Olmos会員が名産Riojaのワインと共にMadridから到着、会話にスペイン語も加わり一段と話が盛り上がりを見せました。楽しい話題やオードブルや飲み物で時間が経つのが速く感じられました。が、これだけで済むテーマではありませんので、また次の機会を是非！と期待しつつ散会となりました。

楽しいサロンでした。¡Muchísimas gracias y hasta la vista!

報告者：渡邊 昭夫

●2月のスペイン・サロン

『日本文化とスペイン文化』についてSr. Emilio Olmos会員に話してもらいました。

会場は満席、エミリオさんはスペインから来日15年、JAICAで13年日本人にスペイン語を教えて来た人。「木を見て、森を見ず」<Los árboles no dejan ver el bosque>の諺をプロローグに、長年海外に滞在して自国を見ることによる個人的な感想、大発見の例を話していただきました。

スペインは世界でも有数のキリスト教に対する国民の信仰が厚い国。日本の因果関係を重んじる国との比較を、ご自分の経験から語っていただき、物の考えの切り口の違いを感じました。

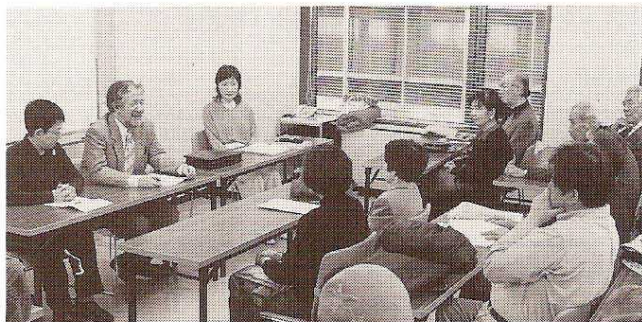
次回には、“Agradecimiento”＝“感謝”について話したいとコメントされました。

エミリオさんは、本年4月から当協会のスペイン語入門講座を講師として担当されます。上述の如く、長年日本人に教えてこられた経験豊かな講師で、日本人のスペイン語の勉強上の弱点を熟知しておられるのでABCからの勉強が出来るナ、と思いました。

報告者：牧瀬 貢



▲スペイン料理に乾杯！話は尽きず、次回を乞御期待



▲参加者全員、熱心に聞き入るエミリオさんの話

***** 新文化講座からのお知らせ *****

第2回スペイン料理の集いのお知らせ

好評だった第1回（2001年11月11日）に続いて第2回目のスペイン料理の集いを下記の要領で開催いたします。ご家族、ご友人をお誘い合わせの上ご参加ください。

なお席に限りが御座いますので、ご参加の方が多数の場合には抽選とさせていただきます。

日 時： 7月14日（日） 12：00～14：00

場 所： スペイン料理 「オリーブ」 （横浜駅東口より徒歩3分）
横浜市西区高島2-5-10 TEL：045-441-4996

会 費： 2,500円

テーマ： 天正少年使節団がスペインで食べたものとは？

天正10年（本能寺の変の年）。大友・大村・有馬の九州3大名から、ローマ教皇に派遣された少年達が、スペインを通過する時に食べたであろう食材を使って、文献を頼りに想像力も加えて「オリーブ」の中村シェフが当時の料理を再現するべく腕を振るってください。

申込み： 名前 人数 住所と、電話番号を下記まで、はがきあるいはファックスでお申し込みください。
後日詳しいご案内を差し上げます。

締切り： 6月15日（土）

申込先： 廣瀬 勝亮

押し花の魅力－押し花教室に参加して

新年に入り、1月21日（月）に第3回目の押し花教室が始まりました。1回、2回と小物の作品でしたが、今回は「ウェルカム・ボード」を作りました。素敵な作品に仕上がって、「さて、何処に飾ろうかな？」と思いつつ、我家に持ち帰りました。

今回から経験のある方も2人加わり、綺麗な額を作りました。押し花を作る事を習い、好きな生花を「これは押し花に出来るかしら？」と考えるのもまた、楽しい事です。

押し花教室の今後の予定は下記の通りです。何方にでも出来ますので、一度参加されてみては如何ですか？

報告者：廣瀬 孝子

日 時： 4月15日（月） 13：00～15：00 県民サポートセンター701号室
5月20日（月） 13：00～15：00 県民サポートセンター701号室
6月17日（月） 13：00～15：00 県民サポートセンター705号室
会 費： 各回とも 3,500円（材料費込み）

申込み／問い合わせ先：伴野 忠子
廣瀬 孝子

スペイン語教室紹介第3回 マルガリータ教室

大自然の美しさ、歴史的な背景、情熱的な歌と踊り…そして何よりも明るく陽気なスペイン人、1970年代にヨーロッパ長期出張で一番印象に残っていた国スペインが忘れられず、2000年6月より高柳治子先生ご指導のマルガリータ教室にてスペイン語を学んでいます。先生の長い間スペインにかかわっているご経験からスペイン語のみならず生活習慣、国民性、旅行上の注意、マナー等々広範囲にわたるお話から月3回の受講がたのしみとなっております。

マルガリータ教室は老若男女（？）23名の生徒がありますが、先生を筆頭にいつも元気にたのしく明るく勉強する中で、いろいろな人との出会いのしあわせを感じております。

スペイン語学習で昨年一番うれしかった事は、住んでいる金沢文庫のポストオフィスにてポストマンとメキシコの女性との話し合いの中で、簡単な日常会話でお役にたった事…

そして別れ際にメキシコの女性から笑顔で、“Muchas gracias, señor”と言われ即座に“De nada”と言う言葉が出た事です。

何時の日か、スペイン語のみによるスペイン旅行を夢見て、これからも皆さんといっしょに頑張りたいと思います。

（クラス受講生 岸 清）



▲スペイン語だけでなく知識も習得、マルガリータ教室

エウロと私

吉 孝 也

半世紀前に、海と魚を学ぶ学校を出たあと、三崎のマグロ船に10年。

インド洋大西洋のマグロをとった後、ベネズエラを経てスペインのラスパルマスに移動してから40年になる私は、国籍は日本人、精神も日本人のつもりですが、生活の基盤が魚という国際商品にかかわっていることもあり、40年間に訪れた国は百数十カ国を越えています。したがって使ったおカネの種類も当然百種類以上あります。お金に関してはまさに国際人です。

その旅慣れた私も、飛行便乗り換えのため数時間しか滞在しない国に到着しても、まずやる事は両替です。コーヒーを飲んだり、スナックをたべ数千円程度しか使わず、余った小銭は再度両替できず、ポケットに残ってしまいます。

数日間に数カ国回るとき、処分に困る

のは余ったコインを、どう処分するか頭を悩ますことになる。諸国の空港にはチャリティー・ボックスが備えつけられ、余った小銭を寄付できることは、皆様ご経験しておられるとおります。

今、世界を我が物顔に闊歩している国際通貨の米ドルでさえ、国内通貨として、ドルそのもので物を買える国は、米国のほかは、経済破綻しているアルゼンチンも、破たん前は、ドルで市内で物が買えましたが、今では南米のパナマとキューバだけです。

米国に敵対するキューバがなぜ、敵国のドルを国内通貨にしているのか？ 不思議ですが、十人にひとりのキューバ人が亡命して米国に住み、彼らが、数千万ドルの現ナマを故国の飢えている家族に送金しているからです。

米国に40年も敵対しているカストロが、米ドルを自国通貨として使わざるをえないとは歴史の皮肉ですね。

そういう私にとって、欧州連合がEuroという共通通貨を少なくとも、12カ国で流通させることになったのですから、便利この上ありません。12カ国とは、西からポルトガル、アイルランド、スペイン、フランス、ドイツ、オランダ、ルクセンブルグ、ベルギー、イタリア、ギリシア、オーストリア、フィンランドです。

旅行者にとっては便利この上もないエウロ（ちなみに、Euroの発音は、国によってちょっとちがいが、ラテン系はエウロ、アングロ系はユーロ、ゲルマン系はエヴロ）も自分の国に住む庶民にとってはここしばらくは小うるさい話になります。70歳以上の人たちの識字率がそう高くない田舎では、老人たちは細かい計算は出来ません。

スペインのアスナール首相は、2002年1月1日より、自国通貨ペセタをエウロに変更する旨の自署した手紙を、エウロとペセタの換算表といっしょに、国中の納税者全部に送りました。

スペイン政府年金生活者のわたしにも、その手紙が来ました。ちゃんとサインもありました。

店の値段の表示、レストラン、バルのメニューは、ペセタと、エウロの両方になっていますので、高いか、安いかは、わかるのですが、字が2ミリ程度と小さいので、買い物客は値段の比較をするため、いちいち手にとって確かめるので、商品棚のまちは混んで混んで大変…。

エウロは小銭の種類がおおく、またペセタ時代に比べてゼニ勘定が二桁違うので、お釣りの受け渡しに時間がかかってしまうから、買い物時間を余分に下さいと、事務所のセクレタリアに要求された経営者もいます。

私はもともと、バルでコーヒーは飲まない、車のガソリンは付けで買う、レストランの支払はカード、買い物はしない、事務所での昼飯はバナナとミカンという、キャッシュレス生活者なので、エウロに変わっても、あまり影響ありません。

私が最初のエウロを使ったのは、エウロに変わってから一週間もたった1月7日で、従業員にあげたガソリンスタンドのチップでした。

スタンドの従業員に、いままでは100ペセタをわたしていましたが、エウロに換算すると60センチモになり、



▲ユーロ完全導入前は、どの商品もユーロとペセタが表示されていた

半端で面倒だし、1ユーロに切り上げるのも勿体ないし、結局、50センチモ（80ペセタ）に値下げしました。

ユーロをペセタに換算すると端数が出ます。店の経営者は切り上げようとし、消費者は切り下げを希望します。テレビでも、ラジオでも、便乗値上げを自粛するよう、呼びかけていました。

ユーロになっていちばん困ったのは信者の喜捨に頼る教会です。ペセタ時代は、どんなケチな教徒でも、50ペセタ。普通は100ペセタでした。それが、ユーロになったとたん、せいぜい気張った信者でも、1センチモエウロ（2ペセタ）か、20センチモエウロ（33ペセタ）になりました。

ミサがおわったあと、ザルいっぱいセンチモ喜捨銭を数える牧師の渋い顔がテレビで大寫しになっていました。

喜捨金は1ユーロからお願いします。と張り紙を出した教会もあります。

信心深い、スペインでも、教会のミサに行く人たちは、暇があるが、おカネを使いたくない年金生活者など、つつましい人たちですから、1ユーロも喜捨するのはもったいないと思うのでしょうか。センチモは何種類もあり、間違いやすい。小銭のうち茶色のセンチモを出しておけば無難ということでしょう。教会の苦悩がわかるような気がします。

それに、チップに頼る、バルのカマレロ、タクシーの運転手たちも収入の減少を訴えています。逆に見栄をはるお客の多い4星、5星の高級ホテルの従業員さんは収入が増えました。100ペセタコインのチップが1ユーロ（166ペセタ）になったのですから、笑いが止まらない。

ユーロ時代に入って5週間。保守的な私等魚屋仲間は、ドル建ての輸入価格をペセタに換算してからユーロに再換算しなおさないと商売の勘が戻らない。と言っていますが、いずれあと数カ月もすれば、スペインの片田舎の太ったおばさんから、資本経済の先端をゆく株屋のオニイちゃんにいたるまで、ユーロが12カ国3億の人たちに、親しまれてくるでしょう。

ユーロは21世紀の人類の進歩に向けての壮大な実験です。ユーロを使うことで欧州連合の人たちに連帯意識がはぐくまれ、それが世界の人たちを一つに結びつける鎖になることを望みましょう。

—— 会員投稿 ——

スペイン・スケッチの旅ーその2

＜パラドール、そしてパエージャの旅＞

—— 牧 瀬 貢・敏子 ——

ニューヨークの同時多発テロの直後の10月末成田空港はじめ、どの空港も物々しい警戒体制の中、フランクフルト経由でビルバオ国際空港に真夜中に到着した。

早速レンタカーを借り出発したが、新空港の為、アクセスが様変わりで手間取ってホテルに午前2時にやっと到着した。

最初の3日間はビルバオ工場で仕事をしたが、その後旅行が楽しみがあったので気が気ではなかった。4日目の早朝、ビルバオを出発マドリード経由で高速道路N-I、N-IIの約600kmをノン・ストップでドライブし昼下がりの乾燥したラ・マンチャ地方の最初のお目当てのパラドール“ALARCON”に到着した。

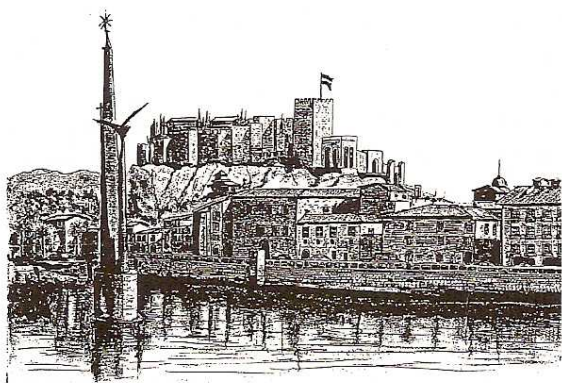


パラドールALARCONの風景

石灰石が幾層にも肌を出した荒涼たる大地。幾重もの重厚な石の城門のアーチからその昔の難攻不落と言われた城が姿を髣髴とさせた。

快晴で澄み切った空気の中で、気持ちも軽やかにキャンバスに向かった。

その翌日はバレンシアでパエージャの美味しい店を探して回った。今まで満足なパエージャに当たったことの無い自分にとってPlayaにあるレストラン“LA PEPICA”は本当に美味しく食べることの出来るPAELLAだった。

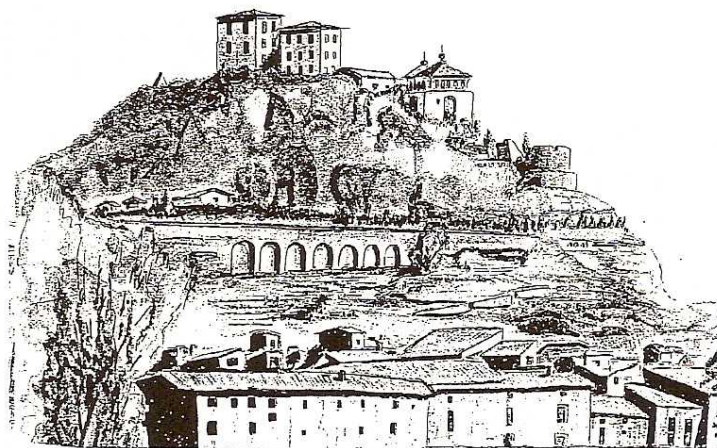


パラドールTORTOSAの風景

その次の日は、高速道路A-7を地中海に沿ってカタルーニア州のTORTOSAへ。エプロ河下流に広がる三角州は大きな水田地帯でパエージャに不可欠なお米の生産地が広がっている。

この日は既に収穫が終わっていたが、数年前な青々と広がった水稻の景色が思い出された。

此处には、エプロ河の流域にローマ時代の城壁の町がある。此处の山上にあるパラドールは天然の要害の城塞であった。エプロ河に立つ市民戦争の記念碑を前景にして快晴の中でスケッチが出来て嬉しかった。

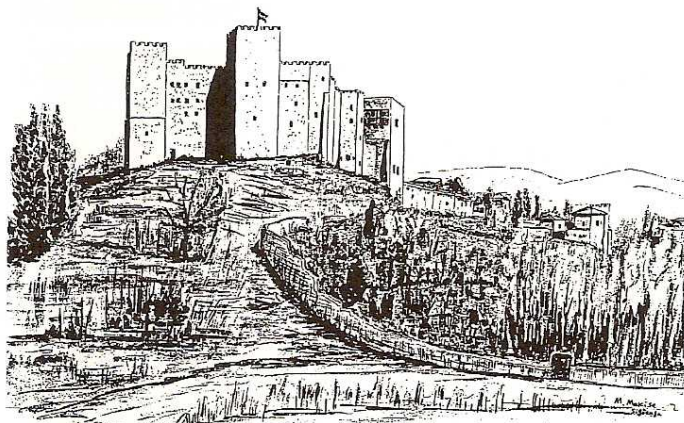


パラドールALCANIZの風景

その翌日、TORTOSAから北へ85kmのALCANIZという町に到着。修道院の建物を利用したパラドールが聳えている。丁度改修工事で宿泊は出来なかったが丘の上からのパノラマを満喫できたし、雄大な山上の景色をスケッチ出来て大満足。

その後、アラゴン州の高地をサラゴサ経由で再びCASTILLA-LA-MANCHA州のSIGÜENZAへ。

その途中でゴヤの生まれ故郷の村FUENDETODOSに立ち寄りゴヤ美術館の絵画、版画に魅了された。こんな田舎から世界的な芸術家が出るなんて……。スペインの風土、景色がそうさせるのでしょうか。



パラドールSIGÜENZAの風景

SIGÜENZAはマドリッドから東方約130kmにあり、中世時代には、政治、宗教の中心地だったらしい。

城塞跡のパラドールは辺りを圧して際立ち存在を誇示している（挿絵参照下さい）。

翌日は、SIGÜENZAからCASTILLA-LEON州のSORIAへ。

この町は、現在は近郊から来るヒマワリ油や穀物の集積地、その昔アラブの城があってその横に新しく建てられたパラドールがある。ドゥエロ河を眼下に見る丘の上の絶勝の地に在る。

その翌日は、VASCO州アラバ県のVITORIA近郊のARGOMANIZAのパラドールに宿泊。最終地は再びビルバオに帰りこの旅を終了した。

古式豊かなパラドールに泊り、スペイン料理の代表のパエージャを本場で楽しみ、風光明媚な景色を画き、そのついで（これは内緒）に仕事が出来た、素晴らしいトータル2250kmドライブの旅でした。



◀スケッチ中の筆者

//////////////// 新入会員紹介 //////////////////

船山晴子 (Haruko Funayama) 2001年11月21日入会

横浜市青葉区

昨年5月に訪れたスペインに対して、興味が尽きません。そんな折昨年10月「アンダルシア州・in・横浜」が開催され、なつかしく三度もでかけました。その時、横浜スペイン交流協会があることを知り、早速入会することにしました。協会の活動に協力させていただきますので、よろしくお願いいたします。

斉藤守弥 (Moriya Saito) 2001年11月23日入会

東京都新宿区

10年前スペインから帰国。先日マドリッド時代の友人で、横浜スペイン交流協会の会員と出会い、スペイン大好きな人たちの仲間に加えていただきたく、入会しました。

マドリッドでは、スペイン人に空手を指導していました。

古屋美那子 (Minako Furuya) 2002年2月2日入会

横浜市保土ヶ谷区

昨年(2001年)9月から、協会のスペイン語教室「ヒラソル」で勉強を始めました。スペインが大好きで良く行きます。そのため、なるべくたくさんのスペインに関する情報を入手しておきたく入会しました。

宮岡栄一 (Eiichi Miyaoka) 2002年2月7日入会

横浜市磯子区

協会での活動を通して、スペインとの接点を持つことができればと思い、入会しました。

現在は自動車関連業界に身を置いています。

将来はスペインのどこかに、ロングステイすることを、考えています。

上原由記音 (Yukine Uehara) 2002年2月5日入会

川崎市麻生区

スペインのピアノ曲を弾き始めて20数年。レニャ大使、下山会長とも20年来のお付き合いになります。

ロンダ市でのコンサート企画中に春田美樹さんが亡くなられましたので、いつかその遺言の実現を果たしたいと思っています。

真木幸子 (Sachiko Maki) 2002年2月16日入会

横浜市緑区

'74~'77年までスペインバルセローナに主人の仕事の関係で住みました。

その後もスペインに興味を持ち続け、語学・旅行を続けています。この会を通して、もっと好きなスペインのことを知りたいと思います。

<編集後記>

スペイン在住の吉会員からユーロの話が届きました。これから旅行にいかれる会員の方のご報告もお待ちしております。当協会副会長の植田伊津さんがご逝去されました。協会創立以来のご尽力に感謝しご冥福をお祈り申し上げます。

* 投稿寄稿宛先

横浜市鶴見区

横浜スペイン交流協会会報係